



日本サルコペニア・
フレイル学会 代表理事
国立長寿医療研究センター
荒井秀典

サルコペニア診療ガイドライン作成の経緯

加齢に伴って骨格筋が減少する病態として「サルコペニア」がRosenbergにより提唱されてから、約30年が経過した。その後、サルコペニアの病態、診断等の研究が進み、骨格筋量の低下と筋力/身体機能低下を持つ病態としてサルコペニアが定義されるようになった。そして、サルコペニアは高齢者においてその健康寿命を脅かすだけでなく、様々な疾患に関連し、その予後に影響を与えることが明らかとなってきた。これらの研究の進展を受けて、2010年European Working Group on Sarcopenia for Older People(EWGSOP)により初めてサルコペニア診断のアルゴリズムが発表され、多くの領域においてサルコペニアの診断がなされるようになり、注目度が一気に高まった。翌年には、International Working Group on Sarcopenia(IWGS)による診断基準が出され、サルコペニアの診断は欧米が先行する形となった。しかしながら、アジア人独自の診断基準作成の気運が高まり、2014年我々はAsian Working Group for Sarcopenia (AWGS)の基準を発表した。

日本を含むアジアの各国ではAWGSを用いたサルコペニアの診断が多くなされるようになり、サルコペニアの研究が飛躍的に進歩した。さらに2016年10月1日にはサルコペニアがICD-10のコード(M62.84)を取得し、国際的にはサルコペニアが独立した疾患として認識されるに至った。このような背景から、我が国においてもサルコペニアを治療すべき疾患として傷病名への登録が必要と考えられた。そのため日本サルコペニア・フレイル学会において診療ガイドラインを作成することが決定され、2016年3月に診療ガイドライン委員会が組織された。ガイドライン委員とともにシステムティックレビューチームのメンバーを選定し、作業を開始した。表1に組織表を示す。

本ガイドラインにおいてはClinical Questionを設定し、それに基づく検索式からシステムティックレビューを行い、ガイドラインを作成した。その後、外部委員による査読、パブリックコメントを経て、最終的に診療ガイドラインとしてまとめた。本診療ガイドラインは2017年中に発刊予定であるが、現時点における標準的な診療情報の提供であり、実際の臨床現場でご活用いただければ幸いである。



表1 診療ガイドライン作成組織

(1)診療ガイドライン作成主体

- 日本サルコペニア・フレイル学会
- 日本老年医学会
- 国立長寿医療研究センター

(2)診療ガイドライン総括委員会

- 荒井 秀典 国立長寿医療研究センター
- 秋下 雅弘 東京大学医学部附属病院老年病科
- 葛谷 雅文 名古屋大学大学院医学系研究科

(3)診療ガイドライン作成事務局

- 佐竹 昭介 国立長寿医療研究センター病院

(4)診療ガイドライン作成グループ

- 飯島 勝矢 東京大学高齢社会総合研究機構
- 遠藤 直人 新潟大学医学部附属病院整形外科
- 金 憲経 東京都健康長寿医療センター研究所
- 神崎 恒一 杏林大学医学部高齢医学
- 島田 裕之 国立長寿医療研究センター自立支援研究室
- 下方 浩史 名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科
- 杉本 研 大阪大学大学院医学系研究科内科学講座
- 鈴木 隆雄 国立長寿医療研究センター研究所
- 原田 敦 国立長寿医療研究センター病院

(5)システムティックレビューチーム

- 小川 純人 東京大学医学部附属病院老年病科
- 柴崎 孝二 東京大学医学部附属病院老年病科
- 上林 清孝 同志社大学スポーツ健康科学部
- 栗原 俊之 立命館大学スポーツ健康科学部
- 藤本 雅大 立命館大学スポーツ健康科学部
- 渡邊 裕也 同志社大学スポーツ健康科学部
- 山田 実 筑波大学大学院人間総合科学研究科
- 吉村 芳弘 熊本リハビリテーション病院
- 若林 秀隆 横浜市立大学附属市民総合医療センター

学会誌の紹介



学会誌『日本サルコペニア・フレイル学会誌』は、当学会の機関誌として2017年6月に創刊号(Vol.1 No.1)が発刊されました。年間2回発行され、会員に配布されます。そのうち1号は学会抄録集です。サルコペニアやフレイルの信頼できる最新情報を日本語で発信する重要な使命を担っています。創刊号の特集は「健康寿命延伸のためのサルコペニア対策—現状の課題と今後の展望」でした。来年6月発行予定の第3号はフレイルについての最新的话题を提供する予定です。また、原著論文の論文を受け付けています。会員および非会員からの投稿を広く歓迎します。ホームページに掲載された投稿規程を確認の上、ご投稿ください。掲載された論文は医中誌等にも引用されます。多くの投稿をお待ちしております。



日本サルコペニア・
フレイル学会編集委員会 委員長
熊本リハビリテーション病院
リハビリテーション科
吉村芳弘

第4回日本サルコペニア・フレイル学会大会を開催して



第4回日本サルコペニア・フレイル学会大会長
同志社大学スポーツ健康科学部教授
石井好二郎

2017年10月14日～15日に第4回日本サルコペニア・フレイル学会大会が同志社大学今出川校地寒梅館を会場に開催されました。学会化後、最初の学会大会であり、初めての京都開催ということも含めて、大会テーマを「京から発信 新たなサルコペニア・フレイル研究」といたしました。

プログラムとしては、3つの教育講演、8つのシンポジウム（内2つはスポンサー）、114題のポスター発表（内9題は優秀演題として口演も実施）、3つのランチョンセミナー、1つのスポンサーセッション、そして1つの市民公開講座が用意され、学会大会にふさわしい活発な議論が繰り広げられました。発表される研究内容も、サルコペニア・フレイル領域の成熟を感じさせるものから、新たな発展を期待させるものまでと多岐にわたり、現在、われわれが直面している重要なテーマが数多く展開され、会場には参加者の皆様の熱意が漂っていました。2日間の開催期間中の参加者は、大会事務局の予想をはるかに上回る750名以上となり、いろいろとご不便をおかけしたかと存じます。特に、立ち見を強いられた先生方は、さぞかしお疲れのことであつたかと申し訳なく思っております。しかしながら、それは、大会長の私ですら想像に及ばないほどに、この領域への期待や関心が高まっていることの証拠と言えるかもしれません。来年度の第5回大会は、初回の開催地、東京に戻ります。さらに充実し、発展することが期待されます。

最後になりましたが、ご支援、ご協力いただきました、企業・団体、そして皆様に厚く御礼申し上げます。



日本サルコペニア・フレイル学会認定指導士のお知らせ

日本サルコペニア・フレイル学会は、高齢者をはじめとする日本国民の健康長寿を支援する人材育成のため、学会認定指導士制度を開始いたします。

【認定指導士の役割・目標】

・サルコペニア・フレイルに関する評価を正しく行い、適切なアドバイスができる。

【認定指導士の申請資格】

下記の①～③を満たすこと。

- ① 次のいずれかの資格を有し3年以上経過していること（医師、歯科医師、看護師、薬剤師、保健師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、臨床検査技師、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、歯科衛生士、歯科技工士、臨床工学技士、放射線技師、介護支援専門員、臨床心理士、健康運動指導士）。
- ② 日本サルコペニア・フレイル学会の会員であること（新規学会入会者も可とします）。
- ③ 所属長または日本サルコペニア・フレイル学会理事・監事の推薦があること。

【第1回 認定指導士取得の流れ】

- 1) 2018年5月20日（日）@名古屋、7月8日（日）@東京、11月18日（日）@大阪で開催する研修会のいずれかに1回参加し、指定した課題を提出する。
 - 2) 自己の関わった症例（3症例）のレポートを準備する。
 - 3) 2019年4月1日～5月31日に、申請書類、資格証明書、推薦状とともに、症例レポート、研修会参加証明書を添えて申請し、審査料を振り込む。
 - 4) 資格取得申請期間内（2019年4月1日～5月31日）に、web試験を受験する。
 - 5) 合格発表後、登録料を収める。
- この制度の発足が、国民の健康寿命延伸に貢献できるように、会員の皆さまのお力をお借りしながら推進して参りたいと考えます。



日本サルコペニア・フレイル学会認定指導士制度委員会 委員長
国立長寿医療研究センター病院
佐竹 昭介

書籍紹介



京都民医連第二中央病院
リハビリテーション部
黄 啓徳



「プライマリケア医のための実践フレイル塾、荒井秀典（編著）が2017年10月に発行されました。書名に「プライマリケア医のため」とありますが、内容的にはフレイルの初学者や今後フレイルの分野を本格的に学びたい方にも、プライマリ医以外の職種の方々にも、推薦できる書籍ではないかと思えます。

内容的には、現状でのフレイルの内容をほぼ網羅しており、構成としてはフレイルの意義・定義からはじまり、予防や対策、アプローチと学びやすくなっています。また、アプローチ編では具体的な症例提示があり、明日から利用できるようなチャレンジングな書籍となっています。執筆者もフレイル分野では、基礎から臨床で活躍されている第一人者の方々で固められており、たいへん読み応えのある内容となっています。

これからもフレイル高齢者が、ますます増加が予想される社会情勢の中で、老化現象を理由に介入をあきらめしまう医療側や患者側に対して、介入可能なものがあることを知ってもらう必要があります。本書は高齢者に対する医療・介護やフレイルに関わる方々に読んでいただきたい、フレイル分野ではもっともオススメの書籍の一冊です。

第5回日本サルコペニア・フレイル学会大会のご案内

会期
2018年11月10, 11日
場所
東京 御茶ノ水ソラシティ
カンファレンスセンター

2018年11月10日～11日、東京・御茶ノ水ソラシティにおいて、第5回日本サルコペニア・フレイル学会大会を開催いたします。基礎から臨床、地域に至るサルコペニア・フレイル研究の最新の知見が集まり、課題解決に向けた議論が深まる大会になることを願い、テーマを“フレイル研究のさらなる飛躍：From Bench to Community”といたしました。このテーマを掲げることにより、トランスレーショナル研究、そして多職種協働による研究もさらに加速し、わが国のフレイル予防研究が次なるステージに入れるような実りのある学術集会にしたいと思っております。ご参加いただく全ての方々、そして本学会の飛躍的な成長の場にすべく、鋭意準備を進めてまいります。本学会の会員の皆様には是非ともご協力ご参加をいただきたく、何卒よろしくお申し込み申し上げます。



第5回日本サルコペニア・フレイル学会大会長
東京大学 高齢社会総合研究機構 教授
飯島 勝矢



第3回アジアフレイル・サルコペニア学会に参加して

2017年10月27-28日に韓国・ソウル大学ブندان病院にて、Hak Chul Jang先生が大会長を勤められ3rd ACFSが開催されました。2つの基調講演、14のシンポジウム、口述発表36題 ポスター発表102題があり、400名が参加したとのこと。私が発表させていただいたポスターブースには大学院生ら若い研究者も目立ち、次世代からの注目度も高い学会だと感じられました。初日の基調講演では、国立長寿医療研究センターの荒井先生が日本サルコペニア・フレイル学会による診療ガイドラインが策定中で、臨床でも有用なサルコペニアの評価方法の整備が進められていることを報告されました。

2日目の台湾のChen先生からは、フレイルを脳障害との関連など病態生理学的に分析することで今後の治療に役立つ可能性が紹介され、最新の情報に触れることができました。シンポジウムのオーラルフレイル、サーカディアン・リズムとサルコペニアの関連の可能性など新しいトピックスは大変興味深いものでした。その他ITを駆使した市民のフレイル抽出・健康増進対策に市長自らも率先して取り組んでいるという自治体からの報告など、今後の幅広い分野への発展が期待できる学会でありました。次大会は来年10月20-21日に中国・大連で開催される予定です。



国立病院機構高知病院
神野麻耶子



編集後記

いよいよ今年も終わりに近づいてきました。今年最後となる、News Letter 第6号を発行いたしました。今回はサルコペニアの診療ガイドライン作成の経緯についてや、第4回日本サルコペニア・フレイル学会大会を終えて、さらに第5回大会のご案内など読み応えのある内容となっております。御担当いただきました先生方、お忙しい中どうもありがとうございました。News Letterは、広報委員会より年に2回発行していく予定です。サルコペニア・フレイルに関する最新の情報などをお届けしていきたいと思っております。今後ともよろしくお申し込み申し上げます。

広報委員(三浦)

